

## 踏 み 跡 < My mountains >

御坂	大石から見付峠へ	No.093
----	----------	--------

御坂山塊の稜線に興味を持ち、少し歩いて見ることにした。富士山がきれいに見える秋から冬がよかろうと考え、歩いて見たいコースを書き出して見た。国立からは気軽に出かけられる場所なので、少しずつこなして見ることにした。

昭和42年9月11日

空には重苦しい雲が一面、雨が降ることは間違いない。国立駅の黄色い貸し傘を借用して、5時24分発の電車で出発。前回より一本遅い電車を利用したため、高尾発5時58分の電車になる、富士吉田に着いたらもう7時50分になっていた。

やがて雨が降り出してきたが、傘があるので少しも慌てることはない、8時40分のバスで大石へ。

大石9時05分着、湖畔の集落は海拔 837m。雨が降ったり止んだりも状態なので9時10分に出発。

林道を見附峠（\*註）へ向かって黄色い傘と小さなサブザックで、幼稚園の遠足のような感じで。

まだ熟しきらない柿の枝々の垂れ下がる農家の垣根を右に左に見やり、大石から一時間ほどで林道終点。

10時10分、杉の木立の中で傘をさして昼食。10時30分に出発。

杉林の中にかすかに踏み跡がある、古い仙人たちの道だろうか。何度か見失いながら見附峠付近の稜線に辿り着いた。雨、こうも山を静まり返らせるものか、鳥の声もない。風のざわめきも、さんさんと降り注ぐ日の光もない。見付峠（1573m）11時30分、30分の休憩。

尾根の傍らの窪地で昼飯時の仙人と会った七日前の趣はまったく感じられない。

半ば色づき始めた木の葉から、ポタリポタリと垂れ落ちる雫の一滴、また一滴。その水滴に黄色い傘の自分が映っては揺れ、揺れては落ちていく。

わずかな雲の切れ間に顔を出す河口湖を見ながら元の道を大石に下った。大石のバス停に13時50分に帰着。14時03分発のバスで富士吉田に戻った。今朝国立駅で借りた黄色い傘は、帰りに駅に返した。

以上

<\*註>見附峠:この峠は後に「新道峠」と呼ばれるようになった。ここに見附があったことによるものと思う。一本東にある御坂峠は鎌倉往還が通っており、甲府盆地への主要アクセス路で、検問も厳しかったのかも

しれない。



(修正・更新:2023年11月)